

2024年10月

第15回ドコモカップ予選会参加スクール各位

大阪府ラグビーフットボール協会
普及育成委員長 石川 悟
普及育成レフリー担当長 川口 晃

大会におけるレフリング指針

<適用される競技規則・通達等>

大会は、以下の競技規則、通達等により実施されます。

- ・ World Rugby 競技規則 Rugby Union ラグビー憲章を含む 2023
- ・ 「令和5年改訂版競技規則（タグラグビー、ミニラグビー、U-15 ジュニアラグビー

ー、19歳未満国内高専・高校以下用）」

https://rugby-japan.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/file/html/152688_6259173ae4d6b.pdf

- ・ (通達) 「競技規則9・13条 危険なプレー」競技規則の試験的変更について
2023年8月25日 <https://www.rugby-japan.jp/news/52150>
- ・ (通達) タックルの高さに関する試験的ガイドラインの導入（7月1日更新）
2023年7月1日 <https://www.rugby-japan.jp/news/51983>
- ・ (通達) U12 ミニラグビー及び U15 ジュニアラグビー競技規則の一部改正について
2023年5月5日 <https://www.rugby-japan.jp/news/51909>
- ・ U-12 ミニラグビー競技規則一部改正
https://rugby-japan.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/file/html/164367_6454cd9266861.pdf

・ U-12 ミニラグビー競技規則「危険なプレーについて」解説書
https://rugby-japan.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/file/html/164383_64559cb8ad8a4.pdf

<原則>

試合に出場し、プレーする選手（子供達）の安全確保を最優先とする試合運営と
します。

<競技規則第6条 マッチオフィシャル>

・試合中のレフリーの職務

5. 競技場内では：

- a. レフリーは、試合中においては唯一の事実の判定者であり、競技規則の判定者である。あらゆる試合において、すべての競技規則を公平に適用しなければならない。(b以降 省略)

・レフリーの笛

8. レフリーは笛を所持し、以下の目的で吹く：

(a～g 省略)

- h. プレーを続けさせるのが危険なとき、または、プレーヤーが重大な負傷を負った疑いがあるとき。

<競技規則 第9条 不正なプレー（危険なプレー・不行跡）>

2023年5月5日付 通達より抜粋。

プレーヤーは、無謀な、または、他者に対して危険な行為はいかなるものもしてはならない。以下は危険な行為となる。

- a. ボールキャリアの際に腕を横に振り、相手を払い除ける行為。
- b. ボールキャリアの際に頸部、顔面、頭部へのハンドオフをする行為。(手を拳骨にすること、また頸部、顔面、頭部へのハンドオフや肩より下であっても相手を怪我させる恐れがあるほど過度に力がかかったハンドオフも危険な行為となる。)
- c. タックルされたプレーヤーか、あるいは地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し、足の間からボールを後方に押し出す行為。
- d. 胸部より上へのタックル。
- e. ノーボールタックル。
- f. ノーバインドタックル。
- g. 逆ヘッドとなるタックル。
- h. ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする行為。
- i. 襟を掴む行為。
- j. 後ろ等から肩口を掴む行為。
- k. 引き倒す行為。
- l. 振り回す行為。
- m. 相手を突き倒す行為。
- n. 頭部を相手に打ち付けるような行為。

- o. 故意に肘または膝を前に出して相手にあたる行為。
- p. モール・ラックを崩す行為。
- q. 地上にあるイーブンボールを相手陣に強く蹴り込む行為。
- r. 相手を怪我させるような行為。
- s. いずれのプレーヤーもモールへ参加する場合を含めて、全てのプレーや局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)プレーをする行為。

※具体的にはボールの争奪、及びタックル時、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック、モール形成時を含めて全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰より頭を下げたままプレーすることをいう。ボールの位置から離れたスイーブや頭の下がる突っ込み、ブリジング、或いはボールに対して蓋をするような行為、ジャッカルの姿勢も禁止となる。これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。

判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為も厳禁である。

罰:ペナルティキック

追加：PKを得た攻撃側がタップキックによりプレーを開始する前に、後方から勢いをつけて攻撃側の選手がスタートし、パスを受け取り突進するプレーは、防御側選手が負傷するリスクが高いため、攻撃側の反則とし、防御側にPKを与えます。

<コーチについて>

- a. 試合中、コーチは定められた区域内に位置し、子どもの自主性、判断力養成の観点から、人格を尊重した言葉で指導を行うこと。またレフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。上記のような言動が見られた場合、レフリーは、試合を停止しコーチに注意をする。それでも改善が見られない場合、そのコーチを退場させることができる。この場合の退場とは速やかに競技場を離れることである。
- b. コーチの不行跡により試合が停止した場合、試合再開は、スクラムで行い、プレーの停止が命じられたときにボールを保持していた側がボールを投入する。レフリーはコーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後速やかに主催者にその旨を報告する。

<脳振盪及び脳振盪の疑い>

脳振盪の疑いがあり、医師、指導者、レフリーの判断で競技を離れたプレーヤー

は、当日の試合出場を認めない。また、その後のプレー復帰は日本ラグビーフットボール協会の定める脳振盪ガイドラインの段階的復帰プロトコル（GRTP）に従うこと。

本大会が、ラグビー憲章が掲げる五つのコアバリューを体現する、素晴らしい大会となるよう、マッチオフィシャル一同尽力しますので、選手、コーチ、保護者、大会関係者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、宜しくお願い致します。

以上